資料４

第７期多摩区地域福祉計画骨子(案)

【計画期間：令和6(2024)年度～令和8(2026)年度】

計画の理念：多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区

川崎市地域福祉実態調査(多摩区)
□市民調査結果/●関係団体調査結果/△ヒアリング

多摩区区民意識アンケート調査
★アンケート結果

□「地域包括ケアシステム」の理解度等について
①地域包括ケアシステムを聞いたことがない（48.2%）

△情報発信について
・積極的に情報を取りにいかないといけない状況だと、情報弱者は置いてきぼりになる。「個」に情報が届くようにしてほしい。

□地域活動やボランティア活動に参加したことがない方はどのような状況になれば参加したいと思うか
①活動する時間ができれば（40.0%）
②きっかけがあれば（37.0%）
③興味を持てる活動があれば（31.9%）

●地域活動において困っていること
①新たなスタッフ（担い手）が確保できない（48.6%）
②スタッフ（担い手）の高齢化（48.3%）

△支援する人・される人の固定化
・支援する人・される人が固定化し、「対等な人と人」としての関係性を築けていない。

★認知症サポーター養成講座を受講したことがありますか、受講したいと思いますか
①受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい（50.1%）

□町内会・自治会に加入していない理由
①特に不便を感じない・必要性を感じない（39.5%）
②関心がない（32.8%）
③きっかけがない（29.4%）

区内の様々な会議等で挙げられた地域の課題等

○地域活動の参加者の確保
・地域組織の構成員の高齢化によって、活動の継続が困難になっている。
・新規住民や、退職して余暇ができた世代が地域の既存グループに入って行きづらい場合が多い。

○困り事相談窓口
・困った際に、どこに相談すればよいかが分かる仕組みがあるとよい。

○障害分野の周知
・障害分野に対する意識・認知度の低さを知り、周知の課題を痛感した。

○地域活動の担い手の育成
・学生や社会人、退職したばかりの世代などに興味を持たせるような取り組みが足りない。
・ボランティア養成講座から地域の団体との顔つなぎの場をつくる工夫の実施や認知症サポーター養成講座を実施しても新規ボランティアにつながらない。

○老人クラブの現状
・コロナ禍により家に閉じこもる方が多い。　友愛活動や体力測定などの活動をしているが、老人会に対する意識の低下と高齢化から参加者が減少している。いかに若い方を増やすかが問題である。

○民生委員児童委員の活動
・民生委員児童委員の担い手が不足し、地域によっては欠員が続いている。
・コロナ禍以降、人と人との関わりが減り、地域の状況が把握しづらい。

統計データでみる現状

○総人口
総人口　224, 188人
世帯数　117,578世帯
1世帯あたり人員　1.91人
（令和4年10月1日現在）

○人口動態
社会増（転入）　16,625人
社会減（転出）　15,423人
社会増減（転入－転出）　1,202人
（令和4年1月～令和4年12月）

○老人クラブ会員数及びクラブ数
平成２９年度
3,491人　６２クラブ
→令和４年度
2,882人　５５クラブ
（各年度4月1日現在）

○町内会・自治会の世帯数・加入率
令和４年度　58,６８3世帯
50.3%（加入率）
（令和4年4月1日現在）

○民生委員児童委員
委員数　２２５人
委員１人あたり受持ち世帯数　５１９世帯
（令和4年４月1日現在）

基本目標１
区民一人ひとりが参加する地域づくり

【3年後を見据えて目指す多摩区の姿】
・必要かつ正確な情報を、一人ひとりに合った方法で提供し、幅広く区民が地域活動に参加している
・地域が求める人材の情報をわかりやすく発信し、新たな担い手が地域活動に参加している

基本方針

1-1 理解と共感を広げる情報発信と場の創出（重点項目）

1-2 地域活動の担い手育成

1-3 地域活動への支援

具体的な取組内容（例）

★第７期で新たに位置づける取組

1-1
【子ども・子育て】
・多摩区地域子育て情報BOOK
・子育てセミナー
【高齢者・障害者】
・パサージュ・たま
・多摩ふれあいまつり
【地域・防災・暮らし】
★子ども版地ケアTAMA
★保健福祉の相談ガイドブック

1-2
【子ども・子育て】
・子育て支援者養成事業
・中高生職場体験
【地域・防災・暮らし】
・認知症サポーター養成講座
・地域の防災人材の養成

1-3
【子ども・子育て】
・多摩区こどもの外遊び交流事業
★ＰＴＡ家庭教育学級講師派遣
【高齢者・障害者】
・老人クラブ育成事業
・患者・家族会等のグループ支援
【地域・防災・暮らし】
・多摩区町会連合会等の支援
・民生委員児童委員の活動支援
★公園・街路樹等の愛護活動支援

第７期多摩区地域福祉計画骨子(案)

【計画期間：令和6(2024)年度～令和8(2026)年度】

計画の理念：多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区

川崎市地域福祉実態調査(多摩区)

□市民調査結果/●関係団体調査回答/△ヒアリング

●地域における問題

①地域のつながりに関する問題（近所づきあい、対面での交流、人と人との関係が希薄など）（60.0%）

□近所の方とどの程度のつきあいか

①あいさつをする程度（47.3%）

●他団体（行政除く）と交流や連携を図っていますか

①定期的に交流や連携を図っている団体がある（43.4%）
②交流や連携を図っている団体はない（35.1%）

□地域福祉を推進するために市民が取り組むべきこと

①地域での交流などを通じた、住民同士の助け合いの意識の向上（41.6%）

●他団体（行政除く）と交流や連携を図っていきたいですか

①交流や連携を図っていきたい（45.6%）

●地域住民との交流や連携が図れているとお考えですか

①比較的図れている（48.0%）
②あまり図れているとはいえない（38.2%）

△イベントを契機に

・地域福祉が複雑化しているが、顔の見える関係が原点。イベント等で顔を合わせればそれをきっかけに関係が築ける。

区内の様々な会議等で挙げられた地域の課題等

○地域の交流・多世代交流の減少

・コロナ禍により、住民同士の交流や高齢者と子どもの多世代交流が減少している。

○「Ankerフロンタウン生田」との連携

・今後、多くの区民が訪れる施設である。広報や啓発活動など連携できることがあるのではないか。

○交流や連絡の手段

・若い人にとって当たり前のことがシニア層の方々にはできないこともある。スマホ講座に防災を絡めたり、若い方とのコラボレーションから入っていくのもいいかもしれない。

○新たな取組の実施

・何かを企画したいと思うが、人を集めて何か実施するノウハウがない。人をどう集めればいいのか。そういった気持ちがあってもなかなか人が集まらない。

○「農」と福祉の連携

・人間は自然と触れ合っていないと精神的に追い詰められていく。人と人との交流もいいが、自然環境との交流というのも非常に大事である。人間と自然との結びつきが福祉につながっていく部分もある。

統計データでみる現状

○年齢３区分別人口割合

年少人口（14歳以下）
10.3%
生産年齢人口（15歳～64歳）
69.9%
老年人口（65歳以上）
19.9%
（令和4年10月1日現在）

○地域のサロン数

２９ヵ所（令和２年度）
→２４ヵ所（令和５年）
※区役所が把握しているものに限る
※休止中含む

○多様な主体による協働・連携に向けた協議会・交流会開催

・のぼりとミーティング
・地ケアつながりプロジェクト～TeamSUGE～
・中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会

基本目標２

多世代交流でつながる地域づくり

【３年後を見据えて目指す多摩区の姿】

・世代や背景の異なる住民同士が交流する機会が増えている
・住民同士が地域の中で出会い、あいさつし合える
ゆるやかな関係づくりができている

基本方針	具体的な取組内容（例）
	★第７期で新たに位置づける取組
2-1 誰もが気軽に参加できる活動・交流の機会づくり	【子ども・子育て】 ・子育てサロン・子育てひろば・外国人の子育てひろば ・たまたま子育てまつり 【高齢者・障害者】 ・障害者と地域住民の交流の場「障害者社会参加学習活動」 【地域・防災・暮らし】 ★「Ankerフロンタウン生田」と連携したスポーツ事業 ・地域サロン・カフェ等への支援 ★初めてのかんたんスマホ講座
2-2 身近な地域での支え合い活動の推進（重点項目）	【地域・防災・暮らし】 ・多様な主体による協働・連携に向けた協議会・交流会 ・地区カルテ等を活用した地域ごとの情報の集約と見える化 ・多摩区・３大学連携事業

第７期多摩区地域福祉計画骨子(案)

【計画期間：令和6(2024)年度～令和8(2026)年度】

計画の理念：多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区

川崎市地域福祉実態調査(多摩区)

□市民調査結果/●関係団体調査回答/△ヒアリング

□助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいか
①親族（68.4%）
②ケアマネジャーやホームヘルパー等（43.4%）

□日常生活が不自由になったとき手助けしてほしいこと
①安否確認の見守り・声かけ（41.6%）

□孤立死を防ぐために有効だと思うこと
①地域住民による声かけ、見守り（41.3%）
②電気等の検針や新聞を活用した見守りの取組（34.6%）
③弁当の配食時に安否確認する取組（26.8%）

□家庭生活の中で感じている不安
①身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない（39.8%）
②経済的に生活できるか不安である（33.1%）
③介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない（26.2%）

△受援力～助けてと言える力～
・世の中が、自分で努力しないと相談できない、サポートしてもらえないという雰囲気だが、困ったり出来なければ頼ってもいいのではないか。優秀な人ばかりではない。様々な人がいて多様性がある。誰もが誰かに支えられている。

□「地域」での生活において問題だと感じていること
①地域防犯・防災に関する問題（32.5%）
②特に問題だと感じていることはない（31.9%）
③高齢者に関する問題（30.4%）

△複数の機関や関係者との連携について
・関係機関の連携について、それぞれ異なる目的がある中でチームになって支援していく難しさがある。

区内の様々な会議等で挙げられた地域の課題等

○関係機関の顔の見える関係づくり
・複合的な課題を抱える世帯の増加に対し、切れ目のない支援を行うため、関係機関との顔の見える関係づくりが必要である。
・一般社会の状況からもますます高齢者の増加は続くので、地区にあった援助が必要になり、近所の人々が常に関心を持って接する環境にしておく必要がある。

○高齢者の実態把握
・孤立化した高齢者の実態把握が難しい。
・民生委員児童委員が不在となっている地域の情報収集やネットワーク構築が困難である。

統計データでみる現状

○児童虐待相談・通告件数
平成２７年度　325件
→令和３年度　653件

○ひとり暮らし高齢者数
平成27年　7,840人
（高齢者人口の19.8%）
令和　2年　8,822人
（高齢者人口の20.1%）
（各年10月１日現在）

○要介護・要支援認定者数
8,244人
（令和4年3月31日現在）
※約30%が要支援1・2

○障害者数（手帳所持者数等）
身体障害者：5,092人
知的障害者：1,636人
精神障害者：2,352人
（令和4年3月31日現在）

○川崎市地域見守りネットワーク事業・協力事業者数
６５社（訪問型）
２０社（店舗型）
※再掲あり
（令和５年５月1日現在）

基本目標３

見守り・支え合いのネットワークづくり

【３年後を見据えて目指す多摩区の姿】
誰もが安心して助けを求められ、地域がその声を受け止め、必要な機関へつなげられている
・複雑化する課題に、区民・団体・民間・行政が連携して対応している

基本方針

3-1 支援が必要な人への見守り・支え合いの推進

3-2 区民・団体・民間・行政の連携

具体的な取組内容（例）

★第７期で新たに位置づける取組

3-1

【子ども・子育て】
★新生児訪問・こんにちは赤ちゃん訪問
★子ども・子育て相談
【高齢者・障害者】
・ひとり暮らし等高齢者見守り事業
★高齢者・障害者相談支援の実施
★認知症等行方不明SOSネットワーク事業
【地域・防災・暮らし】
・川崎市地域見守りネットワーク事業
・災害時要援護者避難支援制度

3-2

【子ども・子育て】
・多摩区こども総合支援連携事業
・多摩区要保護児童対策地域協議会実務者会議
【高齢者・障害者】
・多摩区在宅療養推進協議会
・地域ケア会議（個別ケア会議・地域ケア圏域会議・多摩区相談支援・ケアマネジメント推進委員会）
・多摩区地域自立支援協議会
【地域・防災・暮らし】
・多摩区健康づくり推進連絡会議
・区・地区社会福祉協議会との連携

他の事業においても、複数の機関と連携して実施しています。